



本企画展は、「墳墓のインテリアデザイン」という切り口で、漢～唐時代の墳墓の変遷を概観するものです。古代中国大陸では、墳墓の中心である埋葬主体部は、死後のすみか、つまり「陰宅」とみなされるようになりました。「インテリア」には建物内面の装飾や、屋内で日常使う家具・調度品などが含まれます。墳墓も陰宅として、それらを当然そなえていました。墳墓の主体部の天井・床・四壁に用いられる構築材には、様々な装飾手法で図像や紋様がほどこされ空間がデザインされました。また各種副葬品がインテリア用品として、死後の必需品として各々の役割をもって配置されました。それぞれの時代の人々が、墳墓のインテリアに、何を期待し何を求めたのか、そしてその背景や理由にはどのような思考・思想・宗教があったのかを読み解く展覧会です。

■ 展示構成

序章 葬礼前段 — 家族の死、そして墳墓へ —

古代中国の葬礼・葬儀について概説します。また、20世紀の満洲において販売されていた、現地の風俗をよく表した「圓平人形」により、大陸漢族の葬送儀礼の場面を展示します。

[主な出品資料] 「墓へ向かう葬列」圓平人形(20世紀前半)

第一章 墓内の空間デザイン

死者の家である墳墓の構築材(建材)として用いられた、表面に様々な図像・紋様が施された「裝飾磚」を展示します。磚とは焼成されたレンガのことを言いますが、今回ご覧いただくのは、前漢時代から後漢時代前期頃によく用いられた、小型スタンプによる図像が多数表現された大型の「空心画像磚」や、面単位で型押しされることが普通の、中の詰まった一般的な大きさの「画像磚」、古代中国大陸の絵師の筆致が見事に残された「空心彩繪磚」などです。そのデザインの面白さや多様性を楽しんでいただくとともに、古代中国大陸の人々の、死後の生活への想い・願いを感じていただけたらと思います。

[主な出品資料] 空心彩繪磚 漢(前2世紀～後1世紀)

第二章 墓内のインテリア — 埋葬主体部内の副葬品とその役割 —

陰宅のインテリアとして必需品である副葬品を役割毎に、漢→魏晉南北朝→唐の順序で展示します(当館蔵品に無い場合はパネル展示)。第一節は墓の出入り口を守るもの(犬・鎮墓獸・武人俑など)、第二節は墓主の出行に関わるもの(牛車など出行行列に含まれる俑類)、第三節は儀器的性格が強い思想性の濃厚なもの(堆塑罐[神亭壺]・塔式罐・鎮墓石など)、第四節は盛水・盛食・煮沸・貯蔵を目的とした容器類、第五節は被葬者の生活空間におかれる調度類(灯・香炉など)、第六節は食に関わる三大生活模型明器類(厨房関係・農作物加工貯蔵・家禽家畜とその檻籠)、第七節は汚物関係の容器・施設模型(豚便所)、第八節は教養や男女の嗜みを示すもの(化粧具)、第九節は生活に一層の豊かさ楽しみを加える娯楽の道具またはその場面の再現(遊戯・舞踊・奏樂の俑)と、大変多様な資料を展示します。

[主な出品資料] 青磁堆塑罐 六朝前期(3世紀中葉～4世紀初)

加彩武人 唐(7世紀)

加彩樂舞女子 唐(7世紀)

終章 埋葬・副葬のあと

埋葬主体部に亡骸を安置し、副葬品を配置し、墓を埋め戻しても、喪葬儀礼は終わりません。20世紀前半の満洲では墳丘の傍らで儀礼がとりおこなわれており、その様子が現地で作られた風俗人形として残されています。時代は違いますが、大陸漢族の死者儀礼の参考資料として展示します。

以上の展示全体をご覧になることで、古代中国大陸では特に漢から唐の時代にかけて、死者のために、墳墓をどのような空間にすることが理想的と考えられていたか、より具体的にイメージできるようになるのではないのでしょうか。

■出品数 約 66 件

■関連イベント ※要入館券

・記念講演会

「中国陶俑の魅力」

講師: 小林 仁 氏(大阪市立東洋陶磁美術館 学芸課長代理)

日時: 2月1日(土) 午後1時30分～3時 / 会場: 地下1階研修室 / 定員: 100名 [当日先着順]

受講料: 700円(入館料含む)

・トーク・サンコーカン(学芸員による講演会)

「墳墓のインテリアデザインを考える—漢～唐時代の墳墓観—」

講師: 江 介也(天理参考館学芸員)

日時: 1月23日(木) 午後1時30分～3時 / 会場: 地下1階研修室 / 定員: 100名 [当日先着順]

要入館券

・ギャラリートーク

開催日: 2月6日(木)

時間: 午後1時30分～2時30分 / 会場: 3階企画展示室

江 介也(天理参考館学芸員)

・マンドートーク

開催日: 1月27日(月)、2月17日(月)

時間: 午後0時30分～1時20分 / 会場: 3階企画展示室

江 介也(天理参考館学芸員)

■開催概要

展覧会名 第97回企画展「墳墓のインテリアデザイン—墳墓観の変遷 漢から唐へ—」

会場 天理大学附属天理参考館 3階企画展示室

会期 2025年1月15日(水)～3月3日(月)

開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

休館日 1月21日(火)・1月28日(火)・2月4日(火)・2月12日(水)・2月18日(火)

入館料 大人500円、団体(20名以上)400円、小中高生300円(学校団体の見学は無料、要事前申込)

※障がい者およびその介護者1名は無料。受付カウンターに障がい者手帳等またはミライロIDをご提示下さい。

主催 天理大学附属天理参考館

後援 天理市、天理市教育委員会、歴史街道推進協議会

第97回
企画展サイト



■お問い合わせ 天理大学附属天理参考館 〒632-8540 奈良県天理市守目堂町 250 番地

TEL.0743-63-8414 FAX.0743-63-7721 E-mail:san-info@sta.tenri-u.ac.jp

展示担当/江 介也(ごう よしまた)考古美術室学芸員 / 広報担当: 山口・渡辺

■第97回企画展「墳墓のインテリアデザイン—墳墓観の変遷 漢から唐へ—」 広報用画像リスト

これらの広報画像は当館ウェブサイトのプレスリリース内(第97回企画展「墳墓のインテリアデザイン—墳墓観の変遷 漢から唐へ—」)よりダウンロード可能です。使用に関しては以下の注意事項を遵守してください。

・キャプションには以下の通り記載してください。

- 【1】 空心彩繪埴 漢(前2世紀～後1世紀)(天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【2】 青磁堆塑罐 六朝前期(3世紀中葉～4世紀初)(天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【3】 加彩武人 唐(7世紀)(天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【4】 加彩楽舞女子 唐(7世紀)(天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【5】 加彩鎮墓獸 唐(8世紀)(天理大学附属天理参考館 所蔵)
- 【6】 ポスター

・写真(画像)のトリミングや文字乗せはご遠慮ください。

・写真(画像)の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。

【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】

